

平成24年度第1回新潟市清掃審議会会議概要

開催日時	平成24年10月3日（水）午後3時00分～午後5時20分	
会 場	新潟市役所白山浦庁舎7号棟4階 7-405会議室	
出席者	出席委員	藤井会長、松原副会長、菊野委員、柴田委員、植木委員、熊田委員、坂田委員、椎谷委員、中澤委員、橋本委員、宮尾委員、山賀委員、山下委員 計13名 (欠席 渡邊委員、皆川委員)
	事務局	環境部長、廃棄物政策課長、廃棄物対策課長、 廃棄物施設課長 ほか
主な議事	<p>1 開会</p> <p>2 議題</p> <p>(1) 近年のごみ量の推移等について</p> <p>(2) 新しいごみ処理基本計画に基づく施策の進捗状況について</p> <p>(3) 震災廃棄物の受け入れについて</p> <p>(4) ごみ処理手数料市民還元事業について</p> <p>(5) 分かりやすい分別呼称について</p> <p>3 連絡事項</p> <p>4 閉会</p>	
主な議題等	<p><審議の進め方></p> <p>それぞれの議題について資料に基づき事務局が説明を行った後、審議委員からの意見・質問を受け審議を進めました。</p>	

<議題> (主な意見等)

(1) 近年のごみ量の推移等について

- 平成24年度に入ってごみ量が増加傾向にあるということだが、4か月の速報で明確にリバウンドしているとはまだいえないのではないかと。1年間全体のごみ量でみる必要がある。

(2) 新しいごみ処理基本計画に基づく施策の進捗状況について

- **資料2**の小型家電の回収拠点について、12カ所になっている理由はあるか。また、今後拠点を増やす予定はあるか。

市～ 回収拠点は市民の利便性も考え、できるだけ土日も開いている施設を選定した。また、今年度はモデル事業という位置づけで実施しているが、拠点増設の要望もあるため次年度以降の設置場所について検討していきたいと考えている。

- **資料3**の関連で本日配られた「生ごみ減量&活用ガイドブック」を区役所や公民館だけでなく、子育て支援センターなどにも配布してほしい。「マイボトルライフガイド」も若い主婦やお母さん世代は興味を持ってくれると思う。

- 小型家電の回収に関連して家電などの不用品回収業者についての認識はどうか。

市～ 家電等の回収業者が市内に複数存在しているのは承知している。このような業者が回収した家電等がぞんざいに扱われて、生活環境に悪影響を与えることがないように指導しているところである。

- 現在は学校給食だけ飼料化しているわけだが、一般の飲食店や事業者からも生ごみが出ていると思う。こういったものは飼料化の対象としないのか。

市～ 学校給食は塩分や油分が低く品質が安定しているため飼料化に向いているが、一般の飲食店から出る生ごみは飼料として活用する養豚業者から不向きという意見があり、現在は行っていない。

- **資料4**のマイボトルキャンペーンについて、アンケート調査をしたということだが、利用者の年齢層や客層など分かれば教えてほしい。また、キャンペーン以前からマイボトル持参を推奨している業者もいると思うが、そのあたりとの関係はどうか。

市～ 年齢層や客層は残念ながら把握していない。キャンペーンを開始する以前からスターバックスさんやタリーズコーヒーさんなどマイボトルを推奨していた。このような業者に参画をお願いするとともに、これまでマイボトルの推奨等特段行っていなかった大手飲食チェーン店や個人店にも協力をお願いして、参画店をここまで充実させることができたと考えている。

(3) 震災廃棄物の受け入れについて

- 受け入れた震災廃棄物を新田で処理する場合、灰を溶融してスラグができると思うが、それらの放射線も測定するのか。

市～ 新田で処理した灰は溶融されてスラグとメタルになるが、それらについても放射線を測定する予定である。

- 先ほどの説明を聞いてもかなり専門的な内容なので、住民説明会でもなかなか理解が進まないのではないか。また、県知事との見解の違いもあるが、そのあたりが不安を増幅させているのではないか。

市～ 今日の説明は審議時間の制約もあったため走り走りの説明となってしまった。現実に住民間の知識の開きがあるため、できる限り丁寧に説明して理解を得る必要があると考えている。また、県ともこれまで調整してきており、災害廃棄物を受け入れて被災地の復興に協力すべきだという考えで一致している。重要なのは放射性物質の管理というところで、十分調整していきたい。

- 放射線濃度の測定についてしっかりやることは重要だが、万が一基準を超えた場合など、速やかに情報提供することを心がけてほしい。スピード感をもって情報提供することは市民に不安感・不信感を持たれないために重要なことだと思う。

市～ ご指摘のとおり今後とも速やかな情報提供に努めていきたいと考えている。

- 震災廃棄物の受け入れにより埋立地の延命化にどの程度影響があるか。また、埋立終了後の利用法についての影響はあるか。

市～ まだ具体的にどれくらいの量を受け入れるか決まっていないが、仮に環境省から示されている想定量を受け入れるとしても、焼却により減容化され、最終処分場に入るのは数十トン程度のため埋立地の寿命にほとんど影響はないと考えている。また、第4赤塚埋立処分地は今年供用開始したばかりで15年間の埋立計画であるが、跡地をどのように利用するかはまだ検討していない。

(4) ごみ処理手数料市民還元事業について

- 23年度の予算額と決算見込みを比べると「(1) 分別意識の向上と啓発」は142%だが、「(8) 家庭系生ごみ減量化」、「(11) バイオマス利活用」、「(13) ごみ出し支援」は執行率が半分くらいだがなぜか。

市～ 「分別意識の向上と啓発」は各種啓発事業を強化している結果で増えているが、それ以外は市民からの申請に基づくものなので、単に申請件数が少なかったという結果である。

(5) 分かりやすい分別呼称について

- それぞれ3つの案が提示されているが、「有害危険物」は5つの品目を具体的にすべて示している案③の「乾電池、蛍光管、水銀体温計、ライター、スプレー缶類」がいいのではないか。また「プラスチック製容器包装」については案③の「プラマーク容器包装」がいいのではないか。
- プラスチック製容器包装については「プラマーク」自体を知らない人が多いので、呼称の後に必ずプラマークのイラストを入れればイメージが付きやすいのではないか。
- スプレー缶類の“類”という部分が曖昧で分かりにくいのではないか。“類”は何を指しているのか。

市～ 現在のごみ百科事典ではカセットコンロ等で使うガスの缶を指している。

- スプレー缶を出す際は中身を出してから出すことになっているが、どうしても出しきれない場合はどうやって捨てればいいのか。

市～ ごみ集積場に出す際に「中身あり」と張り紙等で表示してもらえれば中身が残っていても回収する。

- プラマークというのはすべてのプラスチック製容器包装についているのか。

市～ 現在ほぼすべてのプラスチック製容器包装にプラマークはついていて、ただ凹凸で表示されていたり、一部分かりにくいものもあると認識している。

- 現在の「プラマーク」という呼び方がほとんど浸透していない状況で、「プラマーク〇〇」と呼称を変更するよりは、従前の呼称でプラマークを強調する方がよいのではないか。

- 「プラマーク」が強調されると高齢者は混乱する可能性がある。これまでのプラスチック製容器包装と同じであることをきちんと周知する必要がある。

市～ 市としてはこれまで「プラスチック」という呼称が勘違いを生じる原因と考えており、市民からもそのような意見もいただいているので、“プラマーク”を強調して再度周知を図ることで分別間違いを減らしていきたいと考えている。

⇒本日の議論で出された意見を踏まえ事務局にて分別呼称を決定する方向となった。

傍聴者

1名